



同窓会だより

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会

〒464-8540 名古屋市千種区若水3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

題字は故後藤淳・名古屋電気学園学園長・総長

未来ある若い世代との絆を繋ぐ



永井広明会長
(昭和51年卒業)

うららかな日々が訪れ、燕たちが飛び交い、今年もどうやら巣作りが始まったようです。相変わらずのコロナ禍ですが、会員の皆様にはご健勝にてお過ごしでしょうか。大変心配しております。また日頃の同窓会活動にご理解とご協力を頂きまして感謝しております。

同窓会総会は一昨年続き、書面でご決議を頂きまして、行事は昨年も全て中止でしたが、今年こそは同窓会の行事をやり遂げるべく万全の準備をしております。昨年も在校生支援は部活動全国大会出場激励の他、大学入学共通テスト受験者に激励を致しました。現役生は各大会で素晴らしい活躍を致しました。野球部が夏の甲子園に出場、卓球部はインターハイ5連覇で今年も大活躍、吹奏楽部も全国大会最多出場記録を伸ばしました。他の部も活躍しています。

学校生活では対面での活動が制約を受けていますが、生徒全員にタブレットが配布され、リモート授業も行われています。生徒たちは不自由な中、頑張っています。現代のSNSが当たり前のツールとして存在している世の中では、非対面、匿名のため無責任な発言、心無い誹謗中傷が問題となっています。人々はコロナ禍で孤立感を深め、心が荒んでしまったのでしょうか。私は恩師、故松井郁雄先生に「メンタルハーモニー」の大切さを教わりました。日本的に解釈すると言霊ともいえるでしょう。誠に気持ちのこもった心優しい思いやりのある、相手の心に伝わり響き、互いが共鳴しあう言葉の日頃から大切にしたいものです。我々も今一度、校訓の「誠実、勤勉」を心に刻み、未来ある若い世代との絆を繋いでいくことを大切にしたいと思います。皆様には希望ある明日が訪れる様、祈念致しております。

うららかな日々が訪れ、燕たちが飛び交い、今年もどうやら巣作りが始まったようです。相変わらずのコロナ禍ですが、会員の皆様にはご健勝にてお過ごしでしょうか。大変心配しております。また日頃の同窓会活動にご理解とご協力を頂きまして感謝しております。

「ものづくり教育」の継続的実践



後藤泰之理事長
(同窓会名誉会長)

名古屋電気学園は、今年11月に学園創立110周年という節目の年を迎えます。これもひとえに各設置校の同窓生のご理解とご協力によるものと心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの収束が見えない中、さらなる変異株の猛威により困難な状況が続いています。しかし、各設置校ではオンライン授業の実施など迅速に対応できる態勢を確立しています。また、部活動や卒業式、入学式をはじめ学校行事等につきましても、やむなく中止したこともありましたが、できうる限りコロナ対策を徹底し実施しました。困難な状況下だからこそ、創意工夫をこらし対応する。これこそが、学園全体のテーマである「ものづくり教育」の神髄ではないでしょうか。

昨年、今まで以上の発展を見据え、高校・中学の校名を「愛工大名電」に統一しました。教育活動の改善、相互の連携強化により「名電らしさ、名電の特色」を少しは示すことができたのではないかと思います。今後は連携推進を多岐にわたって展開し、科学技術科・情報科学科から愛知工業大学、専門学校へと「中大連携」を通じた学園全体としての「一貫教育」に努めます。普通科については教育活動を充実させ進学実績向上を目指してまいります。

名古屋電気学園を取り巻く環境は、少子化などにより厳しい状況が続きますが、学園全体が一つになって乗り切り、発展進歩を続けます。

今後も名古屋電気学園は「企業の第一線で活躍できる真の技術者を育てたい」という建学の精神を忘れず、「ものづくり教育」を実践していきます。そのためにも、同窓生の皆様の理解と本学園へのさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京2020パラリンピック競技大会出場を終えて



インタビュー中の今井選手

パラ開会式でベアラーを務める

同窓会の皆様、関係者の皆様、いつも応援ありがとうございます。東京2020パラリンピック競技大会では、開会式で日本の国旗を運ぶベアラーを務めさせていただきました。

大会を振り返って

代表選考は、2021年5月のスペイン国際大会で全てのポイントレースが終了し、その結果によって決まるため、とても緊張した日々を過ごしました。その大会で準優勝し、ランキングにより出場が決まったのは、パラリンピックが始まる1ヶ月前の7月下旬でした。



(Photo by Lintao Zhang/Getty Images)

東京2020パラリンピック競技大会で戦う今井選手

3年後に向けて

自分が勝ち切れなかった理由、弱さはどこにあったのかと、思いを巡らせてみると、自分の気持ちの強さが足りなかったのではないかと感じました。今まで、環境や人に恵まれて、がむしやりに突っ走ってきましたが、これからは自分の力で、誰が見ても「成長したね」と言われるほど準備をしてもっともっと強くなりたいと思います。そして、次のパラリンピックに出場できるようにしたいと思いますので、応援をよろしくお願いいたします。

た。「多様性」がテーマの大会で、医療従事者や消防隊の方などエッセンシャルワーカーの皆さん、レスリング女子で五輪4連覇の伊調馨さん、98年長野パラリンピックのアイズレツジで金銀計4個のメダル獲得のマセソン美季さんら6人のうちの一人に選ばれ、大変光栄なことでした。



(Photo by Lintao Zhang/Getty Images)

東京2020パラリンピック開会式の様子(一番左が今井選手)

「多様性」がテーマの大会で、医療従事者や消防隊の方などエッセンシャルワーカーの皆さん、レスリング女子で五輪4連覇の伊調馨さん、98年長野パラリンピックのアイズレツジで金銀計4個のメダル獲得のマセソン美季さんら6人のうちの一人に選ばれ、大変光栄なことでした。

同窓会(永井会長)より、今井選手のお母様へお祝いが渡されました。(2021年7月)



今井選手(左)と日比市長(右)

2021年9月30日に津島市の日比一昭市長を表敬訪問の際にインタビューしました。

《プロフィール》

いまい たいよう
今井大湧
(平成29年卒業)

愛知県津島市出身
ダイハツ工業所属

パラバドミントン
(SU5:上肢障がい種目)の選手

2015年日本選手権男子シングルス優勝
2017年世界選手権男子シングルス銅メダル
2017年アジアユース・パラシングルス優勝など
日本、世界で活躍
ランキングにより日本代表選手として
東京2020パラリンピック競技大会に出場。
男子シングルス5位。

同窓生の奮闘

未来への挑戦

木附 大己さん

(平成28年スポーツ科卒業)

名電高校時代で思い出深いことは寮生活です。野球部でしたので、入学してすぐ寮に入り、全て自分でするということが新鮮な毎日でした。勉強、練習、食事、寝る時まで、ずっとチームメイトと一つ屋根の下で共同生活を送るわけです。家族のような感じで、自然と絆が生まれます。



名電高校野球部の仲間たち

この仲間たちと二緒に甲子園に行きたい」という気持ち。はとも強くなりました。3年生になった2015年の夏には、二塁手として愛知県大会で戦いましたが、決勝で中京大中京に敗れてしまい、甲子園出場はかありませんでした。卒業後は就職、結婚して、今は2児の父ですが、



プロボクサーとしてリングにあがる木附選手

2020年3月から、ボクシングに挑戦しています。実は、中学時代に「浪速のジョー」こと世界王者の辰吉丈一郎さんの話を聞いて、動画も見るとうちに、すっかり魅了されました。小学校からずっと野球少年でしたが、ボクシングが大好きになり、いつか自分もやりたいと思うようになりました。家族を説得して、働ながらジムで毎日のようにトレーニングを始めましたが、これがとてもきつい。野球の練習とは違って、なかなか楽しめないメニューが多く、もう、全てが苦しいこと連続です(笑)。でも、自分には「日本チャンピオンになる」という目標があるので、どんな辛いことでも乗り越えていきたいと思っています。

ボクシングを始めて8カ月の2020年10月にプロテストに合格して、2021年の6月にデビュー戦で勝利。12月の2戦目は2R TKOで勝つことができました。した。次は、2022年3月に試合が決まっています。8月には中日本新人王決勝戦を控えているので、負けられない一戦になります。みなさんの応援をよろしくお願いします。

キリマンジャロ登頂

堀江 充さん

(昭和37年電気科卒業)

私が山を登るようになってきたきっかけは、中学生の時です。当時の担任の先生に連れられて登山した経験から、すっかり山の魅力に取り憑かれてしまいました。山には、景色はもちろん、頂上まで登りきった時の達成感や、新鮮な空気、普段見られない動物や植物を楽しむなど、日常では味わえない魅力に溢れています。名電高校時代には、親しい友人を誘って同好会を作り、近くの山へ登山を楽しむようになりました。その情熱は、社会人になっても冷めず、むしろ山への気持ちは大きく膨らむばかり。長期休暇になると百名山など登山を楽しんでおりまして、そして50代を迎える頃、ついにアフリカ大陸の



学習支援したタンザニアの子供たち(左が堀江さん)

最高峰キリマンジャロ(標高5895m)に登る機会に恵まれました。15年程前のことですが、当時ボランティアでアフリカのタンザニア連合共和国に行く機会が多くありました。「マライカの翼プロジェクト」というNPO法人の活動を通じて、タンザニアの孤児や、生活困窮家庭の子供たちへの学習支援事業などに現地で取り組んでいました。タンザニアの公用語であるスワヒリ語では、「キリマ」は「山」、「ンジャロ」は「輝く」という意味だそうです。赤道付近にあるキリマンジャロは、国立公園の中にあり、麓のサバンナではゾウやライオン、シマウマなどの野生動物が暮らし、山頂には万年雪に覆われた氷河が光り輝いています。世界中から登山家や観光客が訪れる山ですが、富士山よりもはるかに高い山である為、気温は麓が30℃でも、頂上はマイナス10℃と自然環境は非常に厳しい。夏用の登山服で登り始め、山頂へ進む時には雪山用の防寒具が必要。高山病対策で体を山に慣らし、テント泊をしながら、数日かけて、一歩ずつ登っていききました。しかし、最初のアタックでは、悪天候のため途中で断念。帰国後は、次にチャレンジできる日のために、自転車です毎日トレーニングを続けました。そして13年後、気力、体力ともに整えて再び挑戦し、やっと登頂することができました。長い道のりも、一歩ずつ確実に前に進み続けられれば、必ず頂上に辿り着くことができるものです。山は、私に生きがいと共に、多くの人とのご縁を教えてくれたと思います。



キリマンジャロ国立公園(堀江さん撮影)

卓球部

【団体優勝】

同窓会の皆様、いつも卓球部の活動に多大なご支援・ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。卓球部は8月12日から17日まで富山県で行われたインターハイに出場しました。昨年はコロナ禍で開催されませんでした。現在大会4連覇中であり、現在



5連覇を達成した卓球団体

王手をかけました。

さて、今大会を迎えるメンバーは近年では最強と言えるメンバーで臨むことができました。しかし、選手たちにとって一年間のブランクは大変な影響があり、インターハイ独特の空気に打ち勝つことができるか心配でした。

最初の関門である準々決勝、対東山高校戦（京都）。伝統校同士の戦いは2-0から2-2に追いつかれ緊張感が高まりましたが、敗戦への恐怖心、プレッシャーを跳ね除け3-2で勝利することができました。

迎えた決勝戦。対戦相手は野田学園（山口）。1番でエース篠塚がなりふり構わず向かってくる相手に1-2とリードを許し苦しい展開。しかし、冷静に状況を分析し作戦を変更して逆転勝利。2番吉山は相手を寄せ付けずに圧倒。3番ダブルスは前日の個人戦で優勝していたが野田学園の厳しい攻撃に遭い0-3で敗戦。4番は全日本ジュニアチャンピオンの濱田が、直前に行われたシングルスで敗戦した同じ選手と対戦、善戦しましたが敗戦し勝負は5番へ。5番は副キャプテンの谷垣。いつも陽気で明るいキャラの彼が気合い満点、迫力満点の試合ぶり。

インターハイ団体5連覇、男子ダブルス・シングルスも優勝

中国大会で優勝している相手選手を圧倒し3-0で勝利。チームを5連覇（コロナ禍で6年越し）に導いてくれました。

【個人優勝】

名電高校は、2021年の全日本ジュニアで表彰台を独占、全部員11名のうち8名が全国大会でベスト16以内という高いレベルにあります。

その中でも、優勝した谷垣真のインターハイへの準備は2ヶ月以上前から念密にされていました。「インターハイで優勝するためには絶対に部内戦で勝たなくては」と考えた谷垣は、規定の練習が終わった後に部内の選手に勝つために新しいサーブが必要だと地道に練習しました。その練習は、中学生を相手に毎日行われました。そして大会では今まで使ったことがない新サーブを随所に使い、見事に準々決勝、準決勝、決勝と三回の同士討ち（愛工



優勝した谷垣選手（右）と校長先生（左）

大名電同士の対決）を勝ち抜き優勝という栄誉を勝ち取りました。谷垣は、団体、シングルス、ダブルス優勝の三冠王となりました（木造勇人以来4年ぶり）。

優勝を決め、戻ってきたときの第一声は満面の笑顔で「先生を越えました」でした（今枝監督は二冠）。大会の前から相手を想定し、作戦を考え、計画的に練習し、それを実践し成功させる。この簡単ではないことをやり遂げ、結果を残してくれた谷垣に感謝したいと思います。今後は愛知工業大学に進学予定です。佑真という名前を世界に発信してくれると思います。

シングルスの結果はベスト8に6名入賞し、ほぼ上位を独占しました。結果は篠塚・谷垣ペアが逆転し、優勝を勝ち取りました。決勝戦で敗れた濱田・吉山ペアは敗戦後しばらくその場から動けませんでしたが、しかしながら、お互いに死力を尽くしレベルの高い試合をしてくれた選手たちに、感謝したいと思います。

になる、なりたい、と宣言する選手が6名いたので「熾烈な優勝争いになるな」と、感じていました。



ダブルスの篠塚・谷垣ペア

トーナメントが始まると私の不安とは裏腹にダブルスの圧倒ぶりが目立ちました。決勝戦も愛工大名電同士の対決となり、3年生の篠塚・谷垣ペアと、濱田（3年）・吉山（2年）ペアで行われ、決勝戦にふさわしい大激戦になりました。濱田・吉山ペアが優勝マッチポイントを何度も迎え、それを篠塚・谷垣ペアが意地と戦術でしのぐ、見応えのある試合でした。結果は篠塚・谷垣ペアが逆転し、優勝を勝ち取りました。決勝戦で敗れた濱田・吉山ペアは敗戦後しばらくその場から動けませんでしたが、しかしながら、お互いに死力を尽くしレベルの高い試合をしてくれた選手たちに、感謝したいと思います。

【卓球部監督 今枝一郎】

硬式野球部

【全国大会出場】

日頃より、本校硬式野球部の活動に多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。激戦の愛知県大会を勝ち抜き、第103回全国高校野球選手権大会に出場することができました。選手権大会へ出場する道のはとても大変でしたが、3回戦からの出場でしたが、4回戦以降からは近年甲子園に出場している高校との対戦になりました。準々決勝「東邦」戦では中盤に大量得点をあげての勝利、準決勝「中京大中京」戦では投手戦を制しての勝利、決勝「享栄」戦では中盤に大量得点をあげ、そのまま逃げ切り優勝しました。準決勝・決勝戦で試合前の雷雨や雷による試合開始の遅れ、中断など天候に左右されましたが、生徒は上手く対応し、また天候も我々に味方してくれました。対戦校や天候など、厳しい道のりを制しての優勝でもとても感激深い大会でした。3年ぶりの選手権大会出場は、



野球部 (甲子園球場にて撮影)

錦を削ってきたライバルの私学3強を全て倒しての優勝で、愛知県大会では例えない快挙を達成することができ、硬式野球部として新たな歴史の1ページを刻むことができました。夏の選手権大会はコロナ禍のため色々規制がありました。一般観客が観戦できず、学校応援団も観客動員数が各チーム2000人までと上限が定められており、学校関係者以外は入場できないという状況の中での開催でした。また宿舎入

りの際にもPCR検査で陰性を確認してからの宿舎入りや、練習以外の外出禁止など色々な規制がありました。本校野球部はコロナ感染者を出さずに、試合に臨むことができました。1回戦は大会2日目第4試合、対戦校は東北学院。前半に失点をして、5回終了時に1-5と4点差をリードされていましたが、その後投手も踏ん張り追加点を許さず、終盤に田村俊介の本塁打などで2点を返し、2点差に追い上げました。最終回も走者を出しチャンスを作りましたが、反撃およばず負けてしまいました。生徒たちの終盤の追い上げはとても素晴らしかったと思います。

本校野球部は日頃より合宿生活でチームワークを育み、「野球は生活、生活が野球」をモットーに活動しております。今後もこの精神で野球部を強くしていきたいと思えます。最後に本校野球部を支えてくださった、学校関係者、卒業生、保護者の皆さんに心より感謝いたします。

【部長 橋本慎太郎】

フェンシング部

男女フェンシング部は令和3年8月10日から14日まで越前市Aウィースポーツアリーナ(福井県)で開催された全国高等学校総合体育大会フェンシング競技に出場しました。

3月に開催された全国高等学校選抜大会では男子優勝・女子準優勝だったため、男女での優勝を目指しましたが、男子学校対抗ベスト8・女子学校対抗第三位となりました。

女子学校対抗戦では中学生時に全日本選手権団体ベスト16に入ったチームのメンバーであった山田ひなたと長谷川乃愛を中心に、今年4月から新たに入学した堀彩乃、村田琴音、上園彩乃の5人で試合に臨みました。

学校対抗戦は自チームの3選手と相手チームの3選手が総当たり戦合計9試合をして5勝先取したほうが勝ちとなるルールです。全国選抜で準優勝だったため1回戦はシードとなり、2回戦では地元の武生商業商工高校(福井県)、3回戦では秋田北鷹高校(秋田

県)、準々決勝では鹿児島南高校(鹿児島県)の全試合で山田と長谷川は一敗することもなくチームスコア5対2で勝利し準決勝に駒を進めました。

準決勝では17歳以下の日本代表選手を3選手要する優勝候補の東亜学園高校(東京都)と対戦し、1対5で敗退しました。

全員2年生以下という若いチームでのインターハイ第3位を評価し、これを糧に令和4年3月の全国選抜、令和4年8月のインターハイは優勝を目指して頑張りたいと思います。

最後にフェンシング部を支えてくださっている学校、保護者、地域の皆様にご心より感謝を申し上げます。ともに、愛工大名電の名前をさらに広められるよう生徒と一緒に精進してまいります。

【監督 富田弘樹】



フェンシング部

クラブ紹介

陸上競技部

陸上競技部は、先代監督の石原民雄先生から私がチームを受け継いで12年になります。現在の部員は、男子68名、女子16名で、ほぼ毎日授業終了後、約3時間ほどの練習を行っております。6年前に、全天候型トラックを敷地内に作っていただき、雨の日にも満足な練習が出来る環境も整えていただきました。

先代の石原先生が指導をされていた時代には主に長距離・駅伝に力を入れており、全国高校総体ではここでは挙げられないほどの実績を数々残されました。また駅伝においては、全国高校駅伝で男子は最高3位、女子は8位と、輝かしい成績を残されました。

私がチームを受け継いでからは、主に短距離に力を注ぎ、OB、OGの方をはじめ、数多くのご支援を得ながら日々精進を重ねております。そのおかげもあって、平成24年度の全国高校総体では、女子200mで3位入賞、平成26年度で

は、男子100mで3位入賞を果たすことが出来ました。



陸上競技部 男子



陸上競技部 女子

ここ数年は全国大会への出場が出来ていませんが、現在のチームは男女とも非常に力があり、来年こそは男女ともにリレーで全国大会出場を目標に掲げて厳しい練習を楽しく出来るように毎日工夫して行っています。現代では、生徒の質も変わり、厳しいだけの指導

では結果を残すことは難しく、我々指導者の方が生徒一人一人にきめ細かく配慮をしながら指導をしていく必要性を痛感しております。

また現在は学業との両立が、特に保護者の方からの要望としてあります。これからの部活動の指導は、競技面だけでなく、生徒の人間性を高める指導が必要と考えます。

これからは困難な時代になると思いますが、それを乗り越えて、先代の石原先生が築き上げた陸上競技部をさらに発展させ、目標は全国優勝を掲げてこれからも頑張っていきたいと思えます。

【監督 船本広之】

メディアコミュニケーション部

メディアコミュニケーション部は、現在の北校舎が完成した時に合わせ、放送部から名称を変更しました。毎日のお昼の放送「メディアラジ」を中心に、学校行事の動画撮影や編集、野球部の試合速報などを行っています。今年度の夏には、野球部が全国高等学校

野球選手権大会に出場し、甲子園球場で試合速報をするという貴重な体験をしました。

毎年、文化祭・体育祭という大きな行事がある秋は活動が忙しくなります。文化祭では、クラス発表の事前準備や練習の様子、当日の発表や展示作品などをビデオ撮影したり、開会式・閉会式の様子を各教室に生中継したりします。残念ながら今年度の文化祭は中止となってしまうましたが、体育祭は種目を減らして学年別に日本ガイシホールで実施することができました。メディアコミュニケーション部は、当日のアナウンスと音響、動画撮影を担当しました。



メディアコミュニケーション部

また、日頃の活動の成果を発表する場として、毎年6月に行われるNHK杯全国放送コンテスト愛知県大会に参加しています。今年度は番組制作の部門で初めて決勝に進み、創作ラジオドラマ部門で入選しました。「また明日も」というタイトルで、友人の何気ない一言をきっかけに思い悩む主人公の心情を描いた作品です。脚本は3年生1名、2年生2名が連日話し合いを重ねて作り上げ、キャストもすべて部員が務め、効果音にまでこだわって編集しました。アナウンス部門、朗読部門にも毎年出場していますが、こちらについては一昨年、朗読部門で初めて予選を通過して決勝に進むことが出来ました。まだまだこれからというところですが、生徒たちは日々、発声練習に取り組んでいます。

自分たちが「伝えたいこと」を見つけて、それをどう表現するか。よりよいものを目指して、これからも挑戦し続けていきます。

【顧問 加藤千晴】

クラブ紹介

吹奏楽部

2年ぶりの開催となった第69回全日本吹奏楽コンクールは、10月24日に名古屋国際会議場で新型コロナウイルス感染症防止のため、無観客でおこなわれました。43回目の出場は全国一の実績です。今回は新たな挑戦として、通常はオーケストラが演奏するホルストの名曲「木星」を自由曲に選んで臨みましたが、結果は「銅賞」でした。

また、23回目の出場となった、11月21日に大阪城ホールで開催された第34回全日本マーチングコンテストでは「銀賞」となりました。

2022年1月8日と9日には、第57回定期演奏会を名古屋国際会議場センチュリーホールで開催しました。約190人いる部員が舞台上で密になるのを避け、全員が出演できるように2日間3回に分けておこな

いました。ここ2年は、個人練習が中心でなかなか全体練習ができませんでしたが、当日は、部員達の絆を感じた元気がいっぱい名電サウンドを響かせてくれました。



定期演奏会では、「吹奏楽の神様」と言われたアルフレッド・リード生誕100周年を記念し、名曲「アルメニアン・ダンス」などが奏でられました

令和3年度卒業 クラス幹事のみなさん

※印は代表幹事

【科学技術科】

- A組 柳 奏良・奥 勇介
- B組 長芝宗亮・長濱 颯大
- C組 恩田隼太郎・中島 琉希

【情報科学科】

- A組 瀨瀬龍之介・柴田 悠仁

【普通科】

- A組※ 近藤心琴・高橋隼人
- B組 田原明佳・都築聡磨
- C組 華地山脩悟・土屋翔太郎
- D組 竹内神奈・森 麻奈未
- E組 宇野 蓮・脇若大知
- F組 羽田野愛華・夕部亜緒
- G組 亀山大輔・光川悠太
- H組 桑野優希・又賀慶樹
- I組 清家大和・中村青嶺
- J組 佐伯碧斗・藤原遼平
- K組 長谷川翔太・矢追大翔
- L組 池崎 蓮・竹ノ内陸翔

令和3年度役員総会開催

令和3年度役員総会は、昨年同様書面会議とさせて頂き、同意書決議とし同意書の提出をもって役員総会と致しました。同意書の承認提出者は37名(棄権5名)で原案は可決されました。

同窓会事務所移転

同窓会事務局は令和3年3月11日、高校北校舎の体育館北側「学園北管理棟」(名古屋千種区北千種三丁目4番16号3階建てビル)3階西側301号室に移転。2階にはフロア共用の会議室(広さ62.24㎡)もあり利用することができます。電話番号は変更ありません。



移転した同窓会事務所

◎同窓会からお祝い◎

令和3年春 藍綬褒章【教育振興功績】を受賞された、後藤泰之同窓会名誉会長(学校法人名古屋電気学園理事長)に、同窓会(永井会長)よりお祝いが渡されました。

令和3年度、全国大会出場の高校クラブ活動などに激励とお祝いをしました。

卓球部・フェンシング部・相撲部・ウエイトリフティング部・ボウリング部・野球部・水泳競技部・チアリーディング部・ダンス部・スキー部・将棋部・メカニカルアーツ部・吹奏楽部・大学入学共通テスト受験生激励(クリアファイル等購入)進路指導部

第5回 ホームカミングデイ開催のお知らせ

愛知工業大学名電高等学校同窓会 ホームカミングデイを2022年11月上旬に開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

サポートスタッフの募集、イベント開催のご意見等も募集しております。

イベントの詳細や日程などはホームページでお知らせいたします。 https://meidencoming.hatenablog.com/ ※新型コロナウイルス感染症拡大により中止になる場合がございます。



ホームカミングデイ告知

【次号掲載告知】

北京2022オリンピック競技大会でフィギュアスケート男子シングルの銀メダリスト鍵山優真選手の父・コーチであり、オリンピック(アルペ、ルビル、リレハンメル2大会出場)でもある鍵山正和さん(平成2年卒業)を予定しています。

荻原哲哉校長の学校報告



荻原哲哉校長

令和3年度より岩間博先生の後任として校長に就任いたしました荻原と申します。同窓会の皆様には、日ごろから本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

令和3年度は4月早々、10日間の臨時休校という異例のスタートとなりました。その後6月上旬までクラス単位や部活動単位での自宅待機措置が断続的に続くなど、コロナウイルスに翻弄された2ヶ月間でした。そうした中、本校は「生徒の学びを止めない」を合言葉に教職員一丸となってオンライン授業に取り組みました。本校ほどの大規模校で全クラス一斉にオンライン授業を行うのは簡単なことではありませんでしたが、知恵を集め、工夫を重ねて、軌道に乗せる

「生徒の学びを止めない」

ことができました。休校期間中、用事で来られた1年生の保護者に「オンラインで勉強してですか」と尋ねたところ「してまず、してまず！さすが名電さんです」との言葉をいただき、心の底から嬉しく思いました。「災い転じて福となす」といいますが、この経験が、本校をより危機に強い学校へと成長させてくれたように感じています。

コロナ禍は学校行事にも多々影響を与えました。特に8月末をピークとした感染第五波により、夏休みの体験入学や9月の文化祭（北）、学校祭（南）は中止にせざるを得ませんでした。しかしその後は、体育祭を感染防止対策を講じたうえで例年のように日本ガイシホールで開催することができ、また、修学旅行や遠足も、時期や日程・内容を工夫したりして無事に実施いたしました。生徒たちは、さまざまな制約の中でしたが、その中で精いっぱい取り組み、クラスの一体感や仲間意識をしっかりと高めてくれたように思います。

野球部の甲子園出場や、卓球部、フェンシング部等の活躍は、本号他稿に詳しく報告されると思いますので、残る紙幅で今年度大きく進んだ教育環境整備についてお伝えします。

本校では令和3年度の夏季休業中に北校舎のすべての普通教室に電子黒板機能をもつ高性能プロジェクトを新たに整備し、2学期から供用を開始しました。南校舎も令和4年度中に整備予定です。すでに導入している一人一台タブレットと組み合わせることで、授業の形が大きく変わりつつあります。折しも令和4年度から始まる新教育課程では、これからの時代に必要なる思考力・判断力・表現力を育成するために、主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆるアクティブラーニング）の推進が求められています。そのための理想的な環境がいち早く実現されました。この新たな名電の「強み」を生かして、有為な若人の育成にさらに邁進してまいります。今後ともご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

令和3年度のトピックの

高校PTAから

「共に成長する」



児玉詔子 高校PTA会長

同窓会会員の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症が高校にも波及し、新年度の始まりとほぼ同時に臨時休校となりました。新たな出会いや活動を始める事が困難な状況でのスタートとなり、生徒達にとっては、タブレットやスマホの画面の向こう側が『新しく始まる世界』になりました。

新型コロナウイルス感染者数は下降傾向にあります。先の見えにくい状況の中、緊張の日々が続き不安を抱いていらつしやることと思ひます。

高校の行事は、遠足は延期し、行き先を一部変更、学園祭の中止、体育祭は学年別の開催となり、オンライン配信も今年度は実施されませんでした。状況としては昨年度より厳しい状況

でしたが、感染拡大の波と行事予定の狭間で難しい判断を迫られ、出来る最大限の努力を今もしていただいております教職員の皆様には心より感謝申し上げます。

また、昨年は中止が目立った部活動の各種大会は、厳しい規制の中、概ね、開催されましたので、目指してきたステージに辿り着き、輝きを放つ生徒もたくさんおりました。

特に、硬式野球部は3年ぶりの夏の甲子園出場に学校全体が明るいムードに包まれました。

昨年同様『我慢、忍耐の年』となりましたが、以前と大きく異なるのは、未知の存在だった物が見えてきた事により、何をすべきか、わかり始めた事が挙げられます。どのように共存しつつ、未来に負を残さず発展させていくか、確りと考察し、生徒と共に成長していければ、と考えております。

今後同窓会の皆様とともに見守り、支えていく所存でございますので、ご支援のほどお願いいたします。